

<金融論 期末テスト解答例>

1 2点	① (ウ)	② (キ)	③ (ク)	④ (カ)	⑤ (コ)
	⑥ (タ)	⑦ (ソ)	⑧ (チ)	⑨ (サ)	⑩ (ス)・(ナ)
	⑪ (セ)・(ニ)	⑫ (テ)	⑬ (ト)	⑭ (シ)	⑮ (ネ)
2 4点	(1) (イ)	(2) (ウ)	(3) (ア)	(4) (イ)	(5) (イ)
3 5点	(1) 経営の悪化した銀行で取り付けが発生すると、実際には経営の健全な銀行にまで預金者が現金引き出しに殺到し、取り付けが波及してしまうこと。 (p. 31 参照)				
	(2) 企業の実物資産(耐久設備)が摩耗、スクラップ化することに伴う価値の低下分を、(将来の設備更新のために)費用として計上するもの。 (p. 57 参照)				
	(3) 経済主体の保有する様々な金融資産の組み合わせ(資産構成)のこと。 (p. 84 参照)				
	(4) 保険契約を更新するさい、それまでに保険が適用されなかった優良契約者に対し、保険料を割り引くなどの優遇を与える制度。 (p. 131 参照)				

4
10 点

(1) (p. 41～42 参照)

付保預金にペイ・オフが適用されるため、銀行や預金者のモラル・ハザードを完全には抑制できない。また、実際の破綻処理にかかる費用は膨大なものになりやすく、また規模が大きい銀行ほど取り付けの伝染リスクも高くなることから、現実にはペイ・オフの適用が困難となりやすい。(5 点)

このような理由から、現在では早期是正措置が導入され、金融庁が定期的な検査を行い、経営が悪化した銀行については経営健全化と破綻処理を早期に進め、システミック・リスクを抑えるといった工夫がなされている。(5 点)

(2) (p. 85～87 参照)

格付け機関は、企業や政府といった事業体の発行する債券に付随する債務不履行リスクを分析し、一般の投資家にも分かりやすい指標で情報発信を行う。(5 点)

実績もあり信頼度の高い格付け機関から高い格付けが得られれば、その事業体は有利な条件(例えば、低い金利など)で債券を発行できる。そのため、優良な事業体が、あえて費用をかけて格付けを依頼するインセンティブ(誘因)を生み出している。(5 点)

(3) (p. 135～138 参照)

裁定利益を得るためには、まず債券の保有者から債券を借り、それを現物価格 115 円で売却するという空売りをを行い、代金を金利 10% で運用しながら、あわせて 121 円の先物買い契約を実施すればよい。このとき運用額は $115 \times (1 + 0.1) = 126.5$ 円になり、先物価格 121 円で購入した債券を返済しても差し引き 5.5 円の利益が発生する(0.5 円を切り捨てた 5 円も正解とする)。(5 点)

このような裁定利益を求めて現物の空売りが進むと、最終的に

$$\text{現物価格} \times (1 + 0.1) = 121$$

となるとところまで現物価格が低下し、裁定利益がゼロになる。上の式より、このときの現物価格は、 $121 \div 1.1 = 110$ 円である。(5 点)